



旭丘小だより

練馬区立旭丘小学校
学校だより 7月号
令和2年6月30日発行
発行責任者：関口 一也

学校再開、この3週間を振り返って

副校長 青木千恵

子供たちの元気な声が戻ってきました。学校が再開して、1か月が経とうとしています。学校再開当初、緊張した様子もありましたが、次第にリラックスした様子が見受けられるようになりました。学校が再開し、先生や友達と会える喜びと、ウイルスという見えない敵への不安とが入り交じった3週間だったのではないのでしょうか。

学校は、子供たちの心に寄り添えるよう、第1週めから2週めに掛けて、「心の健康チェックシート」を行い、不安感を捉えるようにしました。3週めからは、放課後の時間に、担任との面談を行っているところです。（1年生は、放課後、方面別にまとまって下校させるため、休み時間に行っています。）

学校が再開して1週めは、手洗いや健康観察票のチェックを教員総出で行わなければならないため、踏切での「登校見守り」については、PTA 校外委員の皆様、役員の皆様にご協力をいただきました。全面的な協力体制のもと、ABの分散登校に対応していただきました。また、不審者情報があり、多くの保護者の皆様、地域の皆様をはじめ、練馬警察署や学童保育施設の方々には、登下校に係る見守りや、付き添いに快くご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

各ご家庭におかれましては、子供たちの健康管理をはじめ、元気に登校できるよう、気を配り、声を掛けていただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながらの学習活動ですが、教員も子供たちと共に学ぶ喜びを感じる1か月でした。担任をはじめ、養護教諭、専科の教員、スクールカウンセラーや心のふれあい相談員とも情報を共有し、「チーム旭丘」で子供たちの心の安定が図り、教育活動が充実したものとなるよう努めてまいります。お子様のことで気になることは、ぜひ、学校までお知らせください。

「ようこそ1年生！ 旭丘小学校の仲間だよ。一緒に遊ぼうね。」

例年は、「1年生を迎える会」をするところでしたが、今年は、三密を避け、先週の朝学活の時間に1年生は、上級生がいる教室へ「入学のあいさつ」に向かいました。各学年の廊下では、上級生のお兄さんお姉さん達が、両壁に沿って待っており、その表情は優しい笑顔です。1年生は、その間を歩いて、あいさつをしました。

2年生からはダンスのプレゼント、3・4・5年生からは、温かい拍手と声援をもらいました。あさひ学級からは手作りのペンダントを、6年生からは折り紙のプレゼントをもらいました。

1年生は、皆、とても嬉しそうでした。例年とは形が違えども、どの学級からも、1年生を精一杯迎えたい気持ちがあふれていました。

「1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。もう学校生活に慣れましたか？ 私たちは、1年生のみなさんが来るのをとても楽しみにしていました。6年生から1年生に折り紙のプレゼントを作りました。教室で先生から受け取ってください。」「まだ学校で分からないこともあると思いますが、そんな時にはぼくたち6年生に気軽に声を掛けてください。これからは、学校の仲間として楽しい時間を過ごしていきましょう。」これは、最上級生である6年生から贈られた歓迎の言葉です。兄弟姉妹のように仲良くできる旭丘小学校の子供たち。このよい伝統を新型コロナウイルスに負けないで受け継いでいきたいという心意気の感じる頼もしい姿でした。

